



真宗大谷派 存明寺通信

NO.223

2025年(仏歴2556年)1月1日

しゅうそしんらんしょうにんごたんじょう りっきょうかいしゅう  
宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年  
きょうさんほうよう ぞんみょうじ  
慶讃法要in存明寺 2026年(令和8年)11月2日(月)・3日(火)に厳修  
ごんしゅう



岩もあり

木の根もあれど

さらさらと

たださらさらと

水の流るる

(甲斐和里子・念仏者)

人生は思うようにはならないものです。岩のようなことに遭遇したり、木の根のような出来事があったりと、生きにくさを感じることもあります。

そのような人生という旅を、そこで流れが止まってしまおうのではなく、岩や木の根との出会いを大切に体験しながら、さらさらと流れる水のごとくに、障りなく生きることが、私たち人間の、永遠のテーマなのではないでしょうか。

新しい年が明けました。皆さま、本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

真宗大谷派 存明寺

存明寺のHP <https://zonmyoji.jp>

存明寺 Instagram と HP 定期的に更新中!

お寺の活動や諸行事、掲示板の言葉や花手水、法話動画など、定期的に更新中です。ぜひご覧ください。

↓ インスタ ↓

↓ 存明寺 HP ↓



ZONMYOJI\_SAKAI

仏さまはすべてをお見通し

## 五劫という時の流れ

とてもまねはできない

将棋の藤井聡太さんは、ある対局で次の一手を打つまでに、一時間半以上も考えたのだそうです。そして、その次の一手が決め手となって、勝負に勝ったとのことでした。いったい藤井さんは何を考えていたのでしょうか。その後のインタビューでこう答えます。それは、三十手以上先のことを考えていた、とのことでした。

無限の可能性のある手の、ここに打ったらどうなるか、あそこに打ったらどうなるかと、次へ次へと考えたのでしょうか。それを判断する緻密さや思考の深さを感じました。とてもまねはできない、そう思いました。

五劫ごこうという時の流れ

と、ところで、親鸞しんらん聖人しょうにん作の

『正信偈しょうしんげ』の中に「五劫思惟ごこうしゆい」という言葉が出てきます。仏さまがあらゆる人々を救うという願いを建てられた時に、実は五劫というとても長い時間を考え抜いたというのです。では五劫とは、どれ程の長さだったのでしょうか。

經典には次のように説かれています。四十里しじり四方の大きな石があり、三年に一度天人が空から地上に降りてきて羽衣でその岩をさつと撫でるといいます。そしてその石が摩擦によってなくなるのを一劫といい、その石が五つなくなるのが五劫だということです。ちなみに四十里とはおよそ一六〇キロ。東京から静岡まで、または東京から長野までの距離です。そのような大きな石がなくなる時間。そこにはとてもない時が流れていることが伝わってきます。

物語でないと伝わらない

お経に説かれていることとはいえ、どうせ作り話ではないか、と思うかもしれません。しかし、物語という形でないと伝わらないこともあるのではないのでしょうか。ではこの物語は一体何を私に伝えられているのでしょうか。

それはおそらく、この世に生れ出ずる人間の数の多さ、その人々が織り成す人生の多様さ、そしてその中から生み出される人間の苦しみや悲しみの数々。それらを見つめ続けていく時の長さを、五劫という言葉で表現したのではないかと思うのです。

つまり、仏さまはすべてをお見通し、ということですが。それは言葉を換えれば、この世であな体が験する苦しみは、すでに誰かが体験してきた苦しみであり、その苦悩の人間が救われてきた歴史もある、ということはないでしょうか。

この言葉は經典に説かれている

言葉です。迷いながら歩く旅人に、どこからともなく聞こえてくる仏さまの声として説かれています。

戸惑いながら苦悩する旅人よ、すでに道はあるのだよ。そして道があるということは、そこを歩んだ人がいるということだよ。必ずわたることが出来る。ただこの道を尋ねて歩いていこう、と。私たちは絶えずそのように呼びかけられている存在なのではないでしょうか。

五劫という長い時間をかけて生み出された仏さまの「あなたを救う」という願いを聞き取り、道を求めて人々と共に歩んでいきたいものです。

すでにこの道あり

必ず度すべし



## お寺を あなたの居場所に 存明寺の活動 あれこれ

お寺の行事には大きく分けて二つのことがあります。ひとつは「年中行事」。もうひとつは「強化事業」です。

### ▼年中行事

それは季節ごとに行われる仏教の伝統行事です。1月の修正会、3月の春のお彼岸法要、5月の永代経法要、7月のおぼん法要、9月の秋のお彼岸法要、そして11月の報恩講法要です。どの法要もお寺の本堂で法要が行われ、法話の時間があります。どうぞお気軽にご参詣ください。

### ▼教化事業

それはお寺独自の取り組みです。存明寺では次のような事業を定期的に行っています。

\*樹心の会—ご門徒や住職からお話があります。語り合いや触れ合いの時間もあります。

\*こども会—地域の子どもたちが参加しています。お勤めをして、毎月の企画を楽しみます。  
\*グリーンケアのつどい—大切な方を亡くされた人々のつどいで、今の自分の思いを語り合い、聞き合う、温かなつどいです。

\*子ども食堂—野菜たっぷりのキーマカレーなどと共に、人々の居場所を毎月提供しています。70名程の方が参加中です。  
\*輪読会—副住職夫妻が主催する会です。真宗聖典の輪読や発題、語り合いが行われています。



↑親鸞につどい報恩講法要



↑永代経ヒナタカコさんコンサート



↑ある日の子ども食堂



↑五色幕の張られた存明寺本堂



↑副住職夫妻主催の真宗聖典輪読会



↑キーマカレーの子ども食堂

2025(令和7)年 お寺のひろば

2月1日(土)	14時	法話を聞くつどい
3月8日(土)	14時	樹心の会
3月14日(金)	13時	おそうじの日
3月20日(木)	11時と13時	春のお彼岸法要 <small>ひが</small>
3月29日(土)	14時	グリーンフケアのつどい
4月14日(月)	18時	(金) 特別企画
東京教区慶讃法要: 真宗会館		
※4月の「樹心の会」はお休みとなります。		
4月25日(金)	10時	おみがきのつどい
5月3日(土)	12時	永代経法要(速水馨氏) <small>えいたいききょう</small>
5月17日(土)	14時	樹心の会
6月14日(土)	14時	樹心の会
6月28日(土)	14時	グリーンフケアのつどい
7月5日(土)	11時	新盆法要 <small>にいぼん</small>
7月13日(日)	11時と13時	おぼん法要
9月13日(土)	14時	樹心の会
9月19日(金)	13時	おそうじの日
9月23日(火)	11時と13時	秋のお彼岸法要
9月27日(土)	14時	グリーンフケアのつどい
10月11日(土)	14時	樹心の会
10月中旬		日帰り旅行会 存明寺の歴史訪問
10月24日(金)	10時	おみがきのつどい
11月2日(日)	14時	報恩講のゆうべ <small>ほうおんこう</small>
3日(月)	12時	報恩講
11月15日(土)	14時	樹心の会
12月13日(土)	14時	樹心の会
12月20日(土)	14時	グリーンフケアのつどい

特別企画 法話を聞くつどい

東京教区の慶讃法要の企画、法話動画の収録のための法話会が行われます。

日時 2025年2月1日(土) 14時

場所 存明寺本堂にて

講師 岩松知也さん(茨城県・浄善寺)  
伊藤大信さん(神奈川県・西教寺)  
星野 暁さん(茨城県・浄安寺)

会費: 無料 事前にご一報願います。

※終了後に懇親会を開催します。

東京教区の慶讃法要

東京教区の慶讃法要が行われます。

日時 4月14日(月) ~ 18日(金)

場所 練馬区谷原 真宗会館

14日 音楽法要

15日 帰敬式

16日 坂東曲

17日 慶讃の夕べ

18日 伝統法要



存明寺からも16日と17日にたい焼きとたこ焼きの屋台を出店します。存明寺からの団体参拝席の確保は、4日目です。

参拝希望者は、お寺までご一報下さい。

【あとがき】

▼今年(令和7年)は東京教区の慶讃法要が行われます。存明寺の人々もスタッフとして関わっています。存明寺門徒衆も3・4日目に、「たい焼き」や「たこ焼き」の屋台を出店します。場所は練馬区谷原の真宗会館。

▼皆さま、ぜひこの法要にご参詣ください。または、スタッフとしてお力添えください。またとないこの機会を、どうぞお見逃しなく。親鸞聖人に出会う時なのですから。

▼ちなみに2026年の秋には、存明寺でも慶讃法要が行われます。今までがない、思い出深い法要になればと願っています。



東京都世田谷区北鳥山4-15-1  
真宗大谷派 存明寺(ぞんみやうじ)  
住職 酒井義一(釋諦信)  
〒157-0061 TEL. 03-3300-5057  
FAX 03-3300-5880  
E-mail : sakai@zomyoji.jp